博士論文執筆経験談

平成23年度3月修了生　**中道　直子**

私にとって博士課程は，指導教官の中澤　潤先生（千葉大学）が先導して下さる中で，沢山の先輩方が通ってきた博士号取得への道のりを足を踏み外さないようにひたすら地味に歩んだ３年間でした。何度もめげそうになり，泣きながら大学まで通った日々を支えて下さったのは中澤先生であり，先生には卒業論文，修士課程そして博士課程と長きにわたり沢山のご指導とご支援を頂きました。改めまして深く感謝申し上げます。

１．３年間で修了するためのスケジュール

所属していた研究室では，３年間で修了することを目標とした場合のスケジュールが暗黙のうちに決められていました。これは主に，修士課程修了後すぐに博士課程へ進学した学生のためのものです。第１に，修士論文のデータは修士課程を修了した３月までに査読付き雑誌に投稿し，博士課程の１年目で採択をもらうということです。１本目が採択されれば，後は勢いにのって２本３本と・・・と簡単にはいきませんが，３年間で修了するためには早い段階で勢いをつけることが大事であるように思います。

第２に，博士論文の全体考察以外の各章は博士論文を執筆する前に全て個別の論文として発表しておくということです。もちろん，問題・目的の章も，レビュー論文としてまとめておきます。これができていれば，各論文をつなげるだけで博士論文の素ができあがります（もちろんこれを査読の先生に見せてはいけません）。

第３に，査読の先生方が夏休み中に博士論文の草稿をお読みいただけるように８月中に草稿をお渡しし，予備審査も（できれば２回）早い段階で実施させてもらい，沢山のご意見を頂いておくということです。

このような素晴らしいスケジュールを偉そうに書いてみたものの，私はこれを全くこなせませんでした。なんと，３年間のうちに書いた論文は査読１本，最終的に不採択となった英語論文１本，紀要１本と残念な結果です（博士課程入学前から持っていた２本の査読論文を含めて博士論文を書いています）。研究室のOB・OGの代表として，お伝えさせて頂いたということでどうかお許し下さい。

２．研究者としての自分探し

博士課程での最も大きな収穫は，ぼんやりとでも研究者としての自分の姿が見えてきたということかもしれません。例えば，私（中道のことでありません）は観察が得意，緻密に実験を組み立てるのが得意，研究のトレンドを読むのが得意，発想が豊か・・・などなど長所を含めた研究者としての自分像のことです。私の場合は，大変な研究手法でも諦めないでやり遂げられることが長所だと感じています。長所以上に沢山の短所があることもわかりましたが，たった１つの長所でも発見できれば，大きな武器になると思います。

３．楽しく研究をする方法

楽しく研究をするためには，第１に自分が面白いと感じるテーマを自信を持って進める，それを明らかにするための研究手法で諦めないことが大事だと感じました。せっかく面白いと思ったテーマがあるのに，自分でこれはできない，これは大変だからと決めつけたり，調査協力先からあれこれとダメ出しをもらったからなどの理由で諦めてしまっては楽しくありませんし，本当に勿体ないと思います。

第２に，日本学術振興会の特別研究員になることで，お金のことを心配せずに楽しく研究することができました。この支援のお蔭で，他の仕事を最小限に抑えることができ，３年間研究のみに集中できたことは，本当に大きかったと思います。申請書を書くことで自分の研究を見直す機会になりますし，「宝くじは買わねば当たりません」ので是非応募してみて下さい。

第３に，楽しく研究をするために，国際学会誌に挑戦することは本当におススメです。査読者のコメントが本当に素晴らしいし，とても勉強になるからです。もちろん，英語で論文を修正する作業自体は，楽しいどころか苦痛でしかありません。それでも，苦労して修正して，論文が格段に良くなったことが感じられると，研究の楽しさがより増したと思いました。ただし，国際学会誌に論文を投稿して採択をもらうまでには沢山の時間とお金（英文校正代）がかかりますので，博士課程を３年間で修了したい場合や，就職のために論文数を稼ぎたい場合にはデメリットもあります。

指導教官からは常々，博士号を取得することは，研究者としてのスタート地点に立つことに過ぎないのだと教えられてきました。１つのストーリーで説明でき，かつ３年間でできることを見極めて，先の長い研究者人生のはじまりを楽しく過ごして下さい。